



タブレットを使った授業がスタート

国は2020年までに、小中学生に1人1台の情報端末を配置する目標を掲げており、中でも機動性に優れているタブレットの導入が全国的に進んでいます。厚岸町では、教育の指針でもある厚岸町教育大綱において『良好で質の高い学びを実現するICT(情報通信技術)教育の充実に努めます』としており、平成28年度に太田小・中学校にタブレットを各5台導入し、教育効果の検証を進めています。

ではいったい、タブレットを使ってどのような授業が行われているでしょうか。タブレットの特徴を踏まえながらご紹介します。

タブレットの特徴は？

タブレットは、パソコンと比べ起動が速く、インターネットの情報などが手軽に閲覧でき、持ち運びが簡単であることが最大の特徴です。

※現在使用しているタブレット



タブレットとパソコンの違いは？

各学校に整備しているパソコンは、情報処理や文書作成など、これから情報教育を進める上で重要な教具となります。タブレットは、使い方を工夫したり、ソフトを活用したりすると、どの教科でも効果的に活用できる教具です。



どんな授業が可能ですか？

個別学習ではソフトを使い、児童生徒一人一人に応じた学習や、進度に合った学習が可能となります。また、個々の学習を記録することで、学びの足跡が残せます。

グループ内での協働学習の場面では、タブレットを使って、写真や絵などを効果的に活用し発表することができます。また、インターネットを使い、資料の収集を分担することもできます。

一斉授業では、大型テレビと接続し、個々の学習の状況を映し出して全員で検討することもできます。

外で花の写真を撮り、教室で画像を拡大して花のつくりを学習したり、体育では運動の様子を動画で撮り、その場で再生して動きをチェックすることもできるなど、持ち運びが容易であるという特徴を生かした学習ができます。

このように、タブレットの持つ特徴を生かすと、多様な使い方ができます。

タブレットを使う上で必要なことは何ですか？

タブレットはあくまでも指導や学習を効果的に行う道具です。児童生徒が主体的により深く学ぶための教具の1つとして、活用していくことが大切です。

特別支援学級での活用はできるのですか？

キーボードを打つという操作ではなく、指で画面を動かすというような直感的な操作が多くなることから、特別支援教育でも効果的な活用が期待できます。

厚岸町ではどのように導入を進めていくのですか？

平成28年度は太田小・中学校に各5台を導入し、授業での活用や公開授業を通して、検証を進めています。

平成29年度も『教師や児童生徒が使う場合、どのような使い方ができるのか』『どのような学習面で、効果的に活用できるのか』『特別支援学級での効果的な活用』などを検証し、町内各学校への導入のための検討を進めていきます。

●問い合わせ／教育委員会指導室

体験授業を行いました

2月7日に太田中学校で行われた『新一年生体験入学』で、堀幸一教諭によるタブレットを使った理科の授業が行われました。授業ではタブレット内のアプリを使用し、音の振動を学びました。はじめにストロー笛を生徒それぞれが作製し吹いてみると、タブレットに音の波形が表示されました。その後、ギターや音叉でも音を鳴らし、波形の違いを学習しました。

自分で作った笛の音が波形として現れたときには、驚きの声が上がっていました。



タブレットをテレビに接続して、みんなで情報を共有します



初めてタブレット授業を受けた、太田小学校6年生の3人。右から、藤澤弥久さん、木村碧さん、松田華穂さん。

授業の感想を3人に聞きました。

- ・ハイテクだと思いました(藤澤さん)
- ・あんなことができるとすごかったです(木村さん)
- ・操作の方法が単純で使いやすかったです(松田さん)

～現場の先生から～

タブレットは理科・国語の授業と学校行事で活用しています。使い始めたのが12月からなので、何ができるかを模索中ですが、アプリを使った学習、調べ学習、話し合い学習の場で活用できると考えています。タブレット学習をしながら考えを伝えたり、話し合うことを通じて、生徒には『伝え合う力』を養ってほしいです。



太田中学校 長山 康紀 教諭